



中風まじない 鹿ヶ谷カボチャ供養

～安楽寺で味わう鹿ヶ谷カボチャ～



カボチャ供養とは？

毎年7月25日に、安楽寺に参拝された方々に煮炊きした鹿ヶ谷カボチャを振る舞い、中風にならないように祈願する行事で、京都の夏の風物詩のひとつに数えられています。

江戸末期に安楽寺の住職が、病魔で悩んでいる人々を見かね、何とかならないだろうかと本堂で修行中、ご本尊である阿弥陀如来から「夏の土用のころに鹿ヶ谷カボチャを振舞えば中風にならない」という霊告を受け、以後7月25日に日を決め、今日に至っています。戦時中は残念ながら途絶えていましたが、200年以上続いている伝統的行事です。

当日の様子

参拝者は当日本堂にお供えされたカボチャにお参りした後、よく煮込まれたお椀一杯の鹿ヶ谷カボチャをいただきます。7月末頃になると京都はとても蒸し暑くなりますが、緑に囲まれた堂内は涼しく、冷たいお茶と一緒に食べるおいしいカボチャは一時暑さを忘れさせてくれます。スタッフは大鍋でカボチャを煮たり、参拝客をもてなしたりと大忙し。堂内は、和やかにおしゃべりしながらカボチャを味わう人たちが賑わいます。



鹿ヶ谷カボチャとは？

江戸末期より、鹿ヶ谷で伝統的に作られてきた京都の伝統野菜の一種。ひょうたんの形をしているユニークなカボチャです。寛政年間の始めに鹿ヶ谷に住んでいたお百姓さんが津軽国に旅をした時、お土産として持ち帰ったカボチャの種を栽培したところ、ひょうたん型のカボチャに変異したと伝えられています。

現在鹿ヶ谷の農地は少なくなり、鹿ヶ谷カボチャを栽培している家はほとんどありません。寺では、京の伝統野菜の生産に力を注いでいる綾部の農家から運んでもらっています。

住職のお話

「伝統野菜と地域のお寺というのは密接な関係があります。昔は、その年に一番に実ったものをご本尊にお供えしたい、と檀家の方たちがカボチャを持って来られました。本堂に一度に大量のカボチャが集まり、それを住職が切って振舞ったというのがもともとの行事の始まりだったと思います。

たまたま通りかかって入る人もいますが、毎年楽しみに来てくださる常連さんが多いです。どの程度ご利益があるのかと言われますけど、200年以上前から現在に至るまで檀家の方たちの協力によってこの行事は継承されてきました。そのことを思えば、霊験あらたかな行事だと私は信じています。

鹿ヶ谷カボチャは薄味ですが、栄養価が高くてとてもおいしいです。毎年大勢の方がいらっしゃるので、千人分の用意をしています。お家にいる方に持って帰ることもできます。皆様のお越しを楽しみにお待ちしております」。



中風まじない鹿ヶ谷カボチャ供養の案内

開催日時：7月25日 午前9時から午後3時頃
事前の予約は不要です。参加人数制限もありません。
拝観料は400円です。
TEL・FAX：075-771-5360
E-mail：hana-an@kyoto.zaq.ne.jp
URL：http://www.kyoto.zaq.ne.jp/anrakuji/

アクセス

哲学の道より一本山際の、通称“隠れ道”に面しています。法然院の南側。石段の上に見える山門が目印です。



はみだし
すてーじ

ギャンブルは確率じゃない！ 気合いだ！
⇒ギャンブルをやってみると、確率論が信じられなくなりますね…。

(教・院 king king)
(大切なのは運のよさ；編)